
武器化の力を得た少年

來瑠瑠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

武器化の力を得た少年

【Nコード】

N4984X

【作者名】

來瑠瑠

【あらすじ】

あらゆるモノを武器化する力を得た少年の話

設定集

設定集につきネタバレなど含みます。

ネタバレが苦手な方は、00話に進むことをお勧めします。

なお設定集には、人物紹介を含めていません。

能力設定

・武器生成

あらゆる物質及び生物を、武器に変換できる。
ただし、使用者の実力が低い場合は武器化できない場合がある。
武器化した能力はそれぞれ

・攻撃力 or 防御力

ランクが高いほど性能が高くなる

- ・耐久

ランクが高いほど、多くの技や使用時間が長くなる。
また、腐食や錆などの進行を弱めて現状を維持し続ける。

・各武器特有の攻撃（刀↓切れ味 槍↓突破力 ハンマー↓破壊性能 など）

ランクが高いほど攻撃力及び防御力に付加を与える。

- ・固有概念

武器化する前から保有していた概念変化させていた武器によっては使用不可なものもある。

- ・付加能力

武器化後に付加した能力、使用者の能力によっては上位の能力を破ることも可能。

武器によつては、付加不可能な能力もある。

- ・付加概念

武器化後に付加した概念、使用者の能力に関係なく上位の概念を破ることは不可能。

武器のランクによつては、付加不可能な概念もある。

- ・ランクについて

モノの性能を10段階で表したもの（より詳な数値を出すため+や-

-を使うこともある）

S・A A A・A A・A・B・C・D・E・F・G

1ランク上がることに能力が2倍になり

1ランク下がることに能力が半分になる

+ か - を付けるとそれぞれ 1・5倍・0・5倍になる。

例外としてGには - がつかずGを下回った時点で0になる

(耐久が0になると崩壊 攻撃力が0になる事は無い為Gが最低値
各武器特有の攻撃は0になるが斬るや撃つなどができなくなる)

始まりの神話

その昔、神々がまだ地上に樂園を築いていた頃・・・

樂園は、神々であふれていた・・・

太陽と月が数千数万回交差し星が幾度かの夏と冬を終えた頃・・・

樂園には、悪しき意志を持った神が現れた・・・

多くの神々は悪しき意志を良しとはせず樂園から追放し・・・

樂園を追われた神々は魔神と呼ばれ地下の奥深くに樂園を築き始めた・・・

あるとき些細なことをきっかけに神と魔神は争いを始めた・・・

同じ力を有する神と悪魔では、決着が着くことがなく・・・

悪魔は獣に力を与え魔獣なる新たな進化を促した・・・

魔獣に対抗するために神は、自分たちの姿を模した人を作り出し・・・

魔獣と魔神に対抗するべく進化し続ける力と能力を与えた・・・。

狼 狼 狼 狼 狼 狼 狼

可笑しい、実に可笑しい本物の狼を見ているはずなのにゲシュタルト崩壊を起こしている気がする

狼が狼に見えなくなってきた。

一面に広がる、草原の地平線を埋め尽くすかのように 魔獣・狼牙がこちらに牙を向けている……。

「基本単位が、群れだとは聞いていたがこの数は、多すぎるよ……」

ため息を吐きながら足元の岩を拾い上げる。

汝、神々が与えし我が能力に従いその身を武器に変えよ

岩 A ↓ 大鎌

攻撃 E

耐久 E

切れ味 E

固有概念 無し

付加能力 狼切り (E)

付加概念 無し

・狼切り (E)

数百の狼を倒すことで手に入れることができる

狼に属するものを攻撃する際
ダメージ増大と
耐久値減少の抑制

岩が光に包まれ灰色の大鎌に姿を変える。

能力値は最低クラス、固有概念も無し

付加概念に対して本能的な恐怖を覚えているのか数歩後ずさる狼たち

「来ないのなら此方から行く」

大鎌を肩に背負うと大地を蹴り狼たちに向かって走り出す

一瞬怯んだ狼たちも、集団の心理なのか一際大きい狼が襲い掛かると集団で襲い掛かり始める。

まるで訓練されたかのように、前後左右同時など死角を突く攻撃が不規則なリズムで襲い掛かる

[illegible]

[illegible]

斬

自分を中心に大鎌を一回転させると、襲い掛かった3匹の狼が真つ二つに切り裂かれる。

「最初の一撃で逃げればいいのに」

＞嵐刈り＜
あらしが

全ての狼たちが、大鎌の軌道に飲み込まれたただの肉塊になった。

技が終息し地面に刃を突き立てた瞬間

【耐久値 限界突破】

耐久が限界ランクGを下回り大鎌に罅が入る

「ありがとう お疲れ様」

ピキィィィン

手の内で大鎌が最後に一泣きして砕け散る。

若干の空しさを感じながら目的地に向かって歩き出した

「制限時間5分前・・・見渡す限り君以外の受験生も見えないようだし、今年はこれだけか」

周りにいる同世代と思われる者たちを見渡しながらつぶやく。

ざっと数えて200人ほどがいるように見える。

「あと50人くらいはここで落第すると思ったんだけどな」

レガンス王立魔法武術学園

この学校に入学する方法は、3つある

1つ目は、お金 中流階級以上貴族なら1人くらいの子供を通わせることができるだろう ただし卒業まで毎年大量のお金を払う必要があり払えなければ即退学となる。

2つ目は、学力 学園が行う学力試験を受け上位2%ほどが合格となる そして卒業までの各年の総合テストで上位10%に入らなければ即退学となる。

3つ目は、実力 学園が行う予備試験、本試験を合格できれば何百人でも受けることができるが、試験を失敗したものの20%は命を落とす。

今年の予備試験会場は魔狼の砂城

広大な砂漠に多くの狼が住み着き群れを成す。

一般人が迷いこめば、次の夜明けを見ることなく白骨になる事だろう。

安全にわたりたければ、最低でも平均的な能力の冒険者を5人は連れていくべき場所だ。

その危険な、砂漠を10代ほどの子供たちが単独で横断していく。

無論、受験者の70%はここで脱落する。

だが、この試験でさえ本試験を受ける資格が無いものを振り分けるためのものでしかない。

「だが、今年は微妙だな・・・」

試験官らしき男は、つぶやいていた

「襲うように仕向けた狼を全滅させたのは５人　半壊以上させたのは４０人　完全に逃げたのが７０人か・・・」

ため息を吐きながら名簿を眺めつつ

[illegible]

次々と受験生を指差し

「・・・・・・・・お前以外は失格 帰って良し」

はあ？ っと呼ばれなかった受験生たちが嘆き殺気を試験官にぶつける

が！ 「ウザイツ」その一言とともに飛ばされた気当りで呼ばれなかった受験生のほとんどは、気絶した。

「今気絶しなかった人は、予備試験合格で気絶した人は、ここに放置するので・・・今意識のある人は付いてきてください」

予備試験合格者が、試験官に続いて歩き出す。

試験官の後を、歩いていると石で造られた鳥居が立っている。

その鳥居に、試験官が懷から取り出した紙切れを貼り付ける。

すると鳥居の内側で、空間が渦を巻くかのように回転し次の瞬間、別の空間を映し出す。

「この鳥居の先が本試験会場なので合格者のみ遅れないようについてきてください」

無表情のまま、歩き出し鳥居をくぐる寸前に。

「合格者以外はここから自力で帰ってください」

そのまま、鳥居を通り抜ける

合格した受験者たちが鳥居をくぐる中、一人の受験生が通り抜けようとすると。

雷鳴と閃光が轟き通り抜けようとした受験生が吹き飛ばされ吐血し
のた打ち回り動かなくなる。

ざわざわとした雰囲気の中鳥居の中から試験官が現れ……。

「私……言いましたよね合格者以外は帰れと」

呆れ顔をしながら倒れている少年を見ると

「死んではいけないようですね彼のようになりたくなかったら不合格者は通らないように」

+ + + + + + + +

試験会場

合格した60人程の、受験者がコロシアムのようなところに集められる。

最初の試験官を含めて3人の試験官が受験生を監視している。

最後に会場に到着した試験官が残りの二人に話しかけ最後の一人の試験官が一步前に入る。

「これより本試験を開始する 既定の人数を倍程度超過しているため 1対1の決闘方式で勝者を本試験合格者とする」

会場がざわめく、だがその声を気にせず試験官は話つ続ける。

「ルールを説明する

この試験会場にあるものならどんなものでも使用可能とする ただし受験生及び試験官の所持品は例外とする

決着は相手を気絶させるか 明らかに戦闘不能状態にさせる ただし死亡させた場合は勝敗に関係なく失格とする

ルールは以上だほかに細かいルールはない対戦相手はこちらが適当に決める」

ルールを説明すると3人の試験官は控室に戻っていった。

しばらくすると拡声魔術によってコロシアム中に試験官の声が響き渡る。

対決する者の名とその勝者を告げる。

いろいろな術師や武術家が火花を散らす。

流石はレガンス王立魔法武術学園といったところか集まっている人間の幅が広い。

年齢と才覚さえあれば、人種・亜人・術師・武術家何でもアリ。

若い受験者しかいないとはいえ単独で魔狼の砂城を超えてきた猛者たちの集まりだ。

子供の喧嘩どころの話ではない、岩を砕く一撃、一瞬で数百発の魔力弾の飛び交う戦場を切り取って来たかのような。

試合数が20を超えた頃、俺の名前が呼ばれた

試合相手を見ると黒いローブに大量の札

導師かな？

導師・・・あらかじめ札に術式を込めたり人形に擬似的な魂を込めて操るなど数多くの秘術が残されていると言われている

試験官が試合開始を告げる

おれの準備とかは関係ないんですね・・・。

試合相手が、札に魔力を込めると投げつけてくる。

・
やけに簡単に躲せるな初めから避けられることが狙いのような・

背後を振り返ると地面に触れた札から光が発せられる。

>地牢 内針<

地面に針が生え捲れあがり対象者を包み込むように発動する。

危なかったあと一秒遅かったら串刺しだった。

脚に魔力を集中し上へ飛ぶ！

武器に変えられそうなものがない

周りを見渡すが武器はおるか瓦礫すら落ちていない。

決闘用に堅牢に作られたコロシアムが裏目にでてますな・・・。

武器化できるものを探す間にも札は次々と飛んでくる。

>黒針<

>刃陣<

> 飛剣<

針と剣が飛び交い札を中心に風の刃が飛び交う

どうしよう・・・自分以外の魔力のあるものは変換するのめんどくさいが致し方あるまい。

「この会場にあるものなら何でも使用可能ですよね？」

試験官に最終確認

大丈夫ですよーっと緩い感じで答えられた

まあ・・・大丈夫ならいいです

このコロシアムには、試験官・受験生・受験生の持ち物以外には瓦礫ひとつない

ただ一つ、入って来た鳥居を除いては。

汝、神々が与えし我が能力に従いその身を武器に変えよ

鳥居に触れて、魔力で包み込み凝縮し望む武器の形に再構築する

転移用ゲート↓双剣

攻撃 D

耐久 D

切れ味 C

固有概念 空間切断 空間連結

付加能力 選定
付加概念 無し

武器化を見て周りがざわめくその喧噪ごと切り裂くかのように右手の剣で空を切る。

斬られた空間が割れたガラスのように、空気を吸収しながら修復していく

なるほどね・・・

左手の双剣を向けながら宣言する

「勝ちます」

概念・能力 設定

固有概念

・空間切断

空間を切断し空間のはざまにモノを吸収できる 熟練度によって離れた場所も切断可能。

ランクによる変化は、切断可能範囲 切断持続時間 切断持続可能距離

・空間連結

空間切断でできた空間をつなげる または、魔力を消費して強制的に空間を接続可能。

ランクによる変化は、同時接続数 接続した空間の内部を移送可能なものの質量の上限アップ

付加能力

・狼切り

狼種をある一定数条件討伐またはある一定ランク以上の個体の討伐によって習得

狼に対する攻撃力アップ 攻撃した際の耐久変化の減少 攻撃の先読み

ランクによる変化は、上記の能力の上昇値アップと 狼種に対する威嚇 狼種に対する絶対命令権

・選定

条件に合ったモノしか効果が発動させないまた別の効果を発動させる

ランクが低いと無効化されることがある。

付加概念

習得条件

固有概念を持ったものを武器化すると習得可能

相手は、狼狽えながらも札を構えて術を展開する。

> 七天虹壁しちてんこうへき
<

七色の光を纏った光が対象を覆い尽くす。

（早い流石は光速です でもまだまだですね）

右の剣で空を切り裂き続けて左の剣で空を入り裂くと七天虹壁の外
の空間に亀裂が走る。

「繋げ」

一言、唱えるだけで内と外との空間をつなぐ

「接触に対する堅牢な術も触れなければ何の意味もありません」

「ここからが本当の決闘です 八封家 ライラ・S・ブラックス
ミス 参る」

外野がざわつく

その昔、地上に落された魔神を地下に封印した当時最強の8人がい
た。

その8人は、神から封印の継続のための力を与えられた子孫のうち
最も相応しい者に能力を継承する。

その血と能力を受け継いだものだけが名乗ることのできる8の称号

重力操作のヒューバート

空間制御能力のマダイリド

再生能力のリベルタドーレ

消滅能力のバンハート

幻覚操作能力のニューカッス

結界能力のロベルゲン

魔獣操作能力のイスピカ

武器生成能力のブラックスミス

能力を継承したものが本来の名と共に名乗ることを許される。

最強能力の継承者が学園の試験を受けるこのことによって既に試験を合格した者とこれから試験を受ける者たちの表情が引きしまる。

「来ないなら此方から行くよ」

感情を心の奥深くに閉じ込め双剣を振りぬく

> 双剣の宴^{うたげ}<

双剣の軌道が宙を斬り飛び交う単発で時には二つの斬撃が混じり合い威力を増して襲い掛かる。

相手も負けじと地面に札を貼り付ける

< 札術 畳返し >

< 札術 五行変異 >

地面がまるで畳を立てるように起き上がり性質が土から金属に変化する。

「僕の斬撃は空間を切り裂き距離を凌駕する」

宣言道理、壁に当たることなく斬撃は対戦相手の前に現れる。

攻撃が直撃し相手がよろめいた瞬間を狙い

< 瞬^{しゅん} >

脚に魔力を集中し相手の背後に回り込み後頭部に手刀をあて意識を刈り取る

戦闘不可能と判断した試験官は、ライラの勝利と合格を宣言する

この瞬間、ライラの4年間の学園生活の始まりを告げた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4984x/>

武器化の力を得た少年

2011年11月14日04時51分発行